

2007 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会	主 査 名：濱田 幸雄 就任年月：2007 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：井上 勝夫 主 査 名：大鶴 徹
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・集合住宅の室内で発生騒音に関して、遮音性能評価水準を検討し、実務で生じる苦情等の是非に対する判断基準として活用できるようにする。 ・2005 年 床衝撃音、空間遮音の評価水準の作成。室内騒音に関する現状基準の課題の洗い出し。 ・2006 年 室内騒音に関する評価水準の検討。文献調査の実施。 ・2007 年 『建築物の遮音設計基準と設計指針』の背景調査。現状との乖離点の把握。 ・2208 年 集合住宅の音環境調査(発生音の種類、レベル、大きさなど)シンポジウムの開催。 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無： 浜田幸雄(日本大学)、羽染武則(東急建設)、岩本毅(三井住友建設)、古賀貴士(鹿島建設)、大脇雅直(熊谷組)、木村和則(小林理研)、山下恭弘(信州大学)、坪井政義(大林組)、藤本一壽(九州大学)、大内孝子(東横学園女子短期大学)、田端淳(大成建設)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2007 年度予算	51,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	7 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 『建築物の遮音設計基準と設計指針』のバックデータの把握を行った。 2. 集合住宅の遮音性能に関する表示尺度と社会的反応においては、付加騒音の大きさ、暗騒音の影響を明示する必要がある。 3. 学会規準は、全国にある集合住宅を対象に、性能の底上げを目標とする。
委員会活動の問題点・課題	1. アカデミックスタンダードと建築物の遮音設計基準と設計指針との位置づけが明確になっていないため、小委員会として方向性を決めにくい。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2007 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>集合住宅における遮音性能水準に関して、主として『建築物の遮音設計基準と設計指針』を参考に、検討課題を整理した。概要は下記の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集合住宅の遮音性能水準は、本学会アカデミックスタンダード『学校施設の音環境保全規準・同解説』と同様、シングルナンバーの推奨値とする。 ・ 室間音圧レベル差による遮音性能水準では、暗騒音レベルによって評価が変動することを考慮する必要がある。ただし、暗騒音レベルをどのように定義するかは、慎重な検討が必要である。 ・ 床衝撃音遮断性能の評価は、標準衝撃源をボールとする方向で検討を進める。また、評価値は A 特性最大音圧レベルとすることの可能性を最大限追求する。 ・ 標準衝撃源をボールとするには、設計法を確立することが必要条件である。この点に関しては、適切な時期に別途小委員会の設置を提案する。 ・ 『建築物の遮音設計基準と設計指針』に示された遮音等級が、裁判における受認限度として引用されている状況は憂慮すべきである。 <p>これらの検討より、遮音性能水準は、負荷騒音、暗騒音レベルの影響で評価が変動することを示す必要であるという認識が得られた。既存集合住宅の音環境調査を通して、具体的な提案がなされるよう活動を進める。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。